

One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



204

2021 July

COVER INTERVIEW

葭本 有悠史さん 蓬田 泰生さん



特集

コロナ禍の 『僇儻不羈』

同志社人訪問

フリーアナウンサー

石井 亮次さんに聞く

My Purpose 挑戦する人
を動画でCHECK!





2021年春

EUキャンパスドイツ語オンラインプログラム 実施報告

EUキャンパス支援室

同志社大学チュービンゲンEUキャンパス（以下EUキャンパス）では留学プログラムが行われていましたが、2020年度春学期以降、新型コロナウイルス感染症の影響により現地に渡航できない状況が続いています。そのような中、コロナ禍でも「海外キャンパスを活かした取り組みと国際交流の機会を学生に提供したい」という思いから、3月1日～3月26日に2021年春 EUキャンパスドイツ語オンラインプログラムが実施され、10名の学生が参加しました。プログラムは全てZoomを用いたリアルタイムで行われました。ドイツ語授業の他、チュービンゲン市民からコロナ禍の体験を伺うことやチュービンゲン大学に在籍している留学生、日本学科学生と交流する機会にも恵まれました。プログラムの最後には、ドイツ語でプレゼンテーションを行えるまでドイツ語能力を高めることができました。また、語学力だけでなく、積極性や

異文化理解も向上し、実りの多いプログラムとなりました。プログラム内容と参加学生の感想をご紹介します。



授業の様子
参加者とチュービンゲン大学ドイツ語教員、チューター

【ある1週間のスケジュール】

	月	火	水	木	金
8:00-9:30 (ドイツ) 16:00-17:30 (日本)	ドイツ語	ドイツ語	プレゼン練習	ドイツ語	ドイツ語
10:00-10:45 (ドイツ) 18:00-18:45 (日本)	ドイツ語	留学生との交流		ゲストスピーカー講演	ドイツ語

チュービンゲンの地理、街の特徴、大学生活などをテーマに、同志社大学で学習した文法事項の復習。説明なども全てドイツ語で行われました。初めは先生のドイツ語が聞き取れないことも多く、茫然とした参加者もいましたが、プログラムが進むにつれ自然と理解できるようになりました。



チュービンゲン・マルクト広場

最終週に日本文化をドイツ語で紹介しました。初めは『ドイツ語でプレゼンなんて無理!』という参加者ばかりでしたが、4週間みっちりドイツ語を学んだお陰で、全員が素晴らしい発表をすることができました。



発表例：ガチャガチャについて

プログラム中は様々な方と交流しました。

- 1.チュービンゲン市民（オーボエ奏者、日本人医療関係者、中学生3名）からコロナ禍の体験を聞き、日本とドイツの新型コロナウイルス対策の違いを学びました。
- 2.ヨーロッパ諸国からの留学生7名と日本人留学生1名から留学生活について伺いました。全員が流暢にドイツ語を話されており、刺激を受けました。
- 3.日本学科学生9名とお互いの好きな場所を紹介し、京都またはチュービンゲンで再会を約束しました。

【学生の感想】

このオンラインプログラムを受けて、よりドイツ語の自信がついてモチベーションも大きく上がり、何よりドイツやドイツ語がもっと好きになりました。今後は、この1ヶ月間の経験を踏まえて大学でのドイツ語の授業を積極的に受講し、ドイツ留学という目標に向けて学習を頑張っていきたいです。

私は、留学は現地で学ばなければ意味がないと考えていました。しかし、オンラインでも語学の修練は可能で、ドイツの文化に沢山触れる素晴らしい機会は十分オンラインでもあることに気付きました。もちろん、新型コロナウイルスの影響が終われば、ドイツにもう一度行きたいです。しかし、次にドイツに行った時により多くが学べるように、オンラインで今のうちから学ぶこともまた、何事にも代え難い財産になることをこのプログラムを通して学びました。

～プログラムを終えて～

参加者はプログラムを通して、ドイツ語能力の向上に加え、異なった経験・価値観を持つ人と接し、自らの視野を広げることができました。参加者が渡航型の留学と変わらずこのような感想を持たれたことで、オンライン留学の潜在的な可能性を見いだせました。

海外渡航が難しくなってから、世界中の大学がオンライン留学プログラムを実施するようになり、今や珍しいものではなくなっています。しかし、今回のような特徴的かつ参加者の満足度の高いものを行うことができたのはEUキャンパス

があったからであると考えます。チュービンゲン大学の変わらないご支援を受けながら、現地との関係性を元に、『現地開催時と同じ』と『コロナ禍だからこそ学べる』内容の両方を盛り込むことができました。現地で実施できる日を心待ちにしながら、オンラインを駆使してEUキャンパス事業を継続していきたいと思えます。



閉会式の様子